

次の取引について仕訳しなさい。商品売買については三分法を使用すること。なお、金額は意図的に小さくしてある。(決算日年1回、3月31日)

- 商品¥10,000を仕入れ、代金は掛とした。なお、商品の引取運賃¥500は現金で支払った。
- 買掛金¥10,000の支払いのため同額の小切手を振り出して取引先に渡した。
- 商品¥30,000を売り上げ、代金として同額の先方振出の小切手を受け取った。
- 商品の売買契約を締結し、代金の一部として現金¥1,000を支払った。
- 商品¥50,000をクレジットカード販売によって売り上げた。なお、クレジットカード販売にかかる手数料は商品代金の3%であり、販売時に信販会社に対する債権から控除する。
- 先に掛で売り上げた商品の一部¥1,000が品違いであったため、返品された。
- 従業員の出張にあたり、旅費の概算額として¥8,000を現金で支給した。
- 応接用セット¥100,000を購入し、代金は月末に支払うこととした。
- 貸付金¥100,000について、利息とともに普通預金口座に振り込まれた。なお、この貸付金は年利率5%、貸付期間6か月、利息を元本回収と同時に受け取る条件で当期首に貸し付けたものである。(利息は月割計算によること)
- 現金の実際有高が帳簿記録より¥300少ないことについて原因を調査していたが、決算日になっても原因が判明しなかった。

次の文章の空欄(ア)、(イ)にあてはまる語句を記入しなさい。

- ① 貸借対照表は企業のある一定時点における(ア)を明らかにするものである。
- ② 損益計算書は企業のある一定期間における(イ)を明らかにするものである。

1. 下表の空欄(ア)、(イ)にあてはまる金額を計算しなさい。当期純損失の場合は金額の前に△を付けること。なお、会計年度は連続している。また、金額は意図的に小さくしてある。

	期首貸借対照表			期末貸借対照表			損益計算書		
	資産	負債	資本	資産	負債	資本	収益	費用	純損益
X1年度	1,000	××	500	1,050	600	××	××	1,100	(ア)
X2年度	1,050	××	××	××	500	××	1,300	1,000	(イ)

2. 次の〈資料〉にもとづき精算表を完成させなさい。なお、勘定科目は上から資産、負債、資本、収益、費用の順に並べ、資本金の金額は各自で算定すること。また、金額は意図的に小さくしてある。

〈資料〉

現金：¥777,000	仕入：¥901,600	繰越利益剰余金：¥420,000
借入金：¥140,000	支払利息：¥8,400	備品：¥518,000
給料¥245,000	売掛金：¥322,000	雑費：¥35,000
買掛金：¥266,000	受取手数料：¥49,000	支払家賃：¥168,000
売上：¥1,400,000	資本金：？	